

# 平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【千葉県富津市】

実施報告書  
(概要版)



## 千葉県富津市について

富津市（ふつつし）は房総半島の南部、東京湾に面しています。人口約4.5万人、総面積約205km<sup>2</sup>の広い面積をもち、市の北部には富津岬が海に突き出しています。

訓練を実施した金谷地区は市の中央やや南に位置し、フェリーが発着する金谷港を中心に海岸沿いに市街地が細長く形成されています。市街地の背後には急峻な山が迫り、切り立った絶壁をもつ鋸山は観光地になっています。

富津市では、従来型の総合防災訓練を地区単位で細分化して実施するなど、地域の特徴や災害特性に配慮した防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

## 訓練概要

- 訓練想定：11月12日（日）午前9時に、震度6強の地震が発生。富津市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。金谷地区の住民は、地震発生後5分以内に津波の影響が始まり、後に最大高さ10mの津波が到達することを想定しながら、最寄りの十分高い場所へ避難を開始した。
- 実施日時：平成29年11月12日（日）9：00～12：00  
シェイクアウト訓練、津波避難訓練 9：00～9：30  
（シェイクアウト訓練は市内全域で一斉実施）  
金谷小学校防災イベント 9：30～12：00  
（防災展示会、防災講演会、訓練報告会）
- 主催：内閣府、富津市
- 参加者数：450名（※参加機関を含む。）
- 参加機関：金谷地区自治会（第1区及び第3～第8区）、金谷小学校（児童）、富津市消防本部、富津市消防団、富津警察署、自衛隊千葉地方協力本部、NTT東日本、防災科学技術研究所、千葉県

## 事前準備・企画と当日の訓練内容

### 3ヶ月前～ 訓練準備・企画

訓練に先立ち、地区住民が主体的に準備を重ねた。地区として初開催でもあり、「5分でどこまで逃げられるか?」「高さ10mを何分で超えられるか?」を把握する「課題発掘型」とした上で、地区ごとに高さ10m以上の「避難場所」やそこに向かう「避難経路」を独自に設定した。

#### ▼地区住民による準備（訓練企画）



### 9:00～12:00 シェイクアウト訓練、津波避難訓練

市全域で、各自の居場所において地震の揺れから身を守るシェイクアウト訓練を実施した。

金谷地区では、引き続き津波避難訓練を実施し、訓練参加者が自らの現在位置等を時刻ごとに「携帯用避難地図（高さ10m地点と避難場所を記載）」に記録した。

#### ▼訓練現場での地図記録



#### ▼避難行動要支援者の避難誘導訓練



### 9:30～12:00 金谷小学校防災イベント

津波避難訓練終了後、全員がメイン会場に集合し、防災イベントを開催した。

#### ●防災展示会

内閣府、自衛隊、NTT東日本、防災科学技術研究所、千葉県による啓発パネルや、金谷小学校児童が描いた防災ポスターを展示した。

#### ●防災講演会

専門家（市民防災ラボ代表 玉木貴氏）による「助かる命を守る共助—地域防災はじめての一步」と題した講演会を開催した。

#### ●訓練報告会

津波避難訓練参加者が記入した地図を回収・集計し、訓練の結果を全員で共有した。

#### ▼関係者あいさつ



#### ▼防災展示会



#### ▼防災講演会



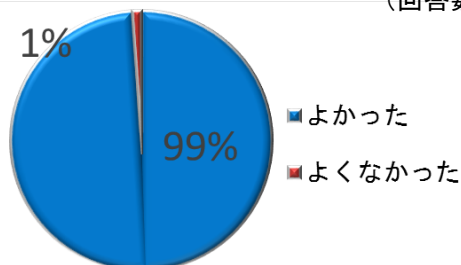
#### ▼訓練報告会



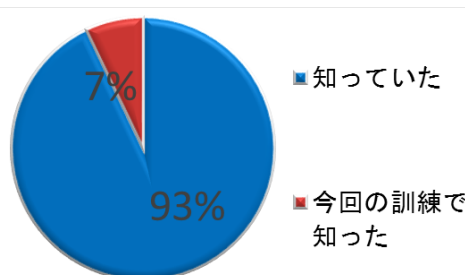
## アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：221人)

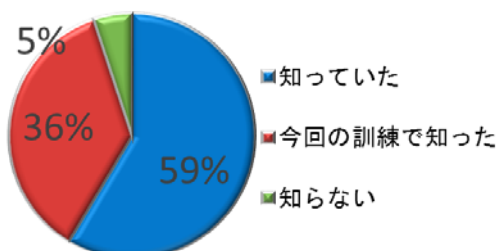
問 訓練に参加して、どう思いましたか？  
(回答数：93人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを  
知っていますか？(回答数：99人)



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？  
(回答数：99人)



(注：回答数は無回答分を除いて集計)

## 訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地区内で初めての訓練にも関わらず、多数の住民が参加した。「携帯用避難地図」の集計により、参加者全体の62%の住民が5分以内に高さ10mを超えて避難し、避難場所までの平均到達時間は7.6分だったことがわかった。今後の貴重な記録となるものである。

こうした結果を踏まえ、本訓練は以下のように評価できる。

- 地区事情に精通した住民が中心となって、地区の課題を共有し準備を進めたことにより、多くの住民が主体的に訓練に参加した。訓練後のアンケートでも「参加して良かった」「津波避難経路が分かった」という意見が大半を占め、これまで津波に対する取組が少なかった中、今回の訓練は、主体的な取組展開への絶好の機会となった。
- 地区住民のつながりが強く、訓練の準備・企画が迅速で、事前周知も徹底することができた。津波避難訓練は10～15分ほどの短時間の行動ながら、区長を中心に統率性のとれたものとなった。今回の訓練を通じて地域の絆の強さの重要性が改めて確認できた。

また、今後の訓練や防災対策に向けて、次のような点が課題として明らかとなった。

- 避難場所や避難経路については、経路上の安全性や、年齢・体力・健康状態にも配慮しながら設定し、津波避難訓練で検証する必要がある。
- 避難行動要支援者の避難については、地域の絆を活かし、支援も組み込んだ方法を考えながら、今後の訓練で検証する必要がある。
- 地区住民のほか、金谷港のフェリー利用客や鋸山の登山客、観光・飲食関連の事業者等を交えた津波避難対策を考えていく必要がある。